

【大学・地域共創プラットフォーム香川】
令和6年度第1回就職・産業振興部会 議事要旨

開催日時：令和6年7月5日（金）10：30～12：00

開催方法：香川大学幸町北キャンパス

法人本部3階第1会議室（高松市幸町1番1号）

出席機関：香川大学 山神 眞一、香川県 臼山 勇、香川県 佐々木 宏樹、
香川県 岡村 武典、徳島文理大学 横山 賢治、香川県商工会議所連合会
大山 裕介、香川県中小企業団体中央会 朝國 和樹、香川県農業協同組合
中央会 大村 康夫、香川県漁業協同組合連合会 塩田 元広、香川県銀行
協会 松田 秀司、高松市 齋藤 直樹（代理）、小豆島町 河野 修平（代
理）

議題事項

1. 令和5年度事業報告【資料1-1, 1-2】

就職・産業振興部会令和5年度事業報告について、事務局から説明を行った。

2. 令和5年度事業の評価【資料2】

就職・産業振興部会令和5年度事業の評価について、事務局から説明を行った。

3. 大学・地域共創プラットフォーム香川次期中長期計画について【資料3-1, 3-2】

大学・地域共創プラットフォーム香川次期中長期計画について、事務局から説明を行った。

1. ～ 3. の議題については、後日事務局から各委員に照会を行い、確認及び回答をいただくこととした。

4. 令和6年度事業の進捗報告【資料4】

令和6年度事業の各担当委員から補足説明を行った。

【委員による補足等】

●かがわーくフェア

・イベントを開催しているものの実績には結びつきにくいというのが率直なところであるが、実施しないことには始まらないため、ご協力いただいている皆様には感謝している。今年度は、県外で開催される同様のイベントに県内企業が参加できないかということを検討している。また、学生が主体となって実施する企業研究イベントとの連携が図れないかと考えているところである。（香川県商工会議所連合会 大山委員）

●業種別オンライン県内企業見学ツアー

・8月・9月で各大学と日程調整をしており、企業には本イベントへの参加を依頼しているところである。日程が確定したら、各大学に連絡するので、学生への周知等について御協力をお願いしたい。また、今年度は県外学生も対象に加えることとしており、日程が確定したら、香川県の担当者に周知依頼をするので、こちらについても御協力をお願いしたい。

（香川大学 圖子次長）

●うどん県の自治体で働こう大懇談会

・9月25日（水）に開催予定として、各大学に周知したところである。香川県、高松市を含む県内自治体に参加していただけることになっているが、昨年度と比べ参加自治体が増加している。各大学には、ポスター等を送付しているので、周知等の御協力をお願いしたい。（香川大学 圖子次長）

●学生・企業の就職先選定等の実態把握と対策の検討

- ・令和4年度に学生の就職活動に関する実態調査を実施し、令和5年度には県内企業の採用活動に関する実態調査を実施したところである。今年度は、PFの委員及びPFの委員外からなるWGを通して、両者の間にあるギャップを分析と今後の対策検討を行いたい。（香川県 岡村委員）

●外国人材活用セミナー&交流会

- ・外国人材採用に積極的な姿勢を示している県内企業が増えてきている。引き続き本取組みを実施してまいりたい。

（香川県商工会議所連合会 大山委員）

●学生と県内企業との交流会

- ・これまでのキャリア支援研修会を、学生と県内企業との交流会という形にリニューアルするものである。夏季休暇期間に実施するため、日程的な問題も含め、事務局から確認することとしたい。香川短期大学が企画・運営となっているが、各委員様には色んな場面で御協力をお願いすることになると思うので、よろしく願いたい。（山神部会長）

●学生による企業インタビューシップの実施

- ・高校生については県内高校5校を想定しており、大学生については高松大学が授業において実施することとしている。充実したインタビューシップとなることを期待している。（山神部会長）

●高校、大学等のイベント等を活用した地域の魅力発信

- ・令和5年度は、香川県農業協同組合中央会と共同で、香川大学祭にブースを設置した。アンケートも実施し、多くの方にご回答いただいた。香川県農業協同組合中央会では唐揚げを、香川県漁業協同組合連合会ではチヌ団子を提供した。今年度は、香川短期大学との連携で新たなレシピ開発を進めていきたいと考えている。大学を巻き込んだ食育教室などにも取り組んでまいりたい。（香川県漁業協同組合連合会 塩田委員）
- ・香川県産農産物の提供等について、本事業に協力してまいりたい。
（香川県農業協同組合中央会 大村委員）
- ・アオ活は、高校の文化祭や大学祭において、地元中小企業が学生向けのワークショップを開催し、企業の魅力発信を行うものである。香川県中小企業家同友会が精力的に取り組んでいるものであり、事務局としても協力してまいりたい。（事務局 藤澤）

●地元中小企業魅力発見バスツアー（高校生）

- ・令和5年度に産学官共創チャレンジ支援補助金で実施した事業を、プラットフォーム事業として取り組むものである。内容としては、香川県教育委員会の協力を得て、バスツアーに参加する高校生を募集し、中央会青年部役員や青年部経営者との懇談というものを考えている。3月の高校受験の時期に開催したいと考えており、就職に関しては保護者の意向が大きいということを聞いているので、香川県高等学校PTA連合会と連携し、保護者を巻き込んだ企画を検討しているところである。

（香川県中小企業団体中央会 朝國委員）

●地元中小企業魅力発見バスツアー（大学生）

- ・香川大学創造工学部における県内就職率が低いこともあり、香川大学創造工学部、徳島文理大学理工学部、香川高専といった理系学生を対象とする地元中小企業の見学ツアーを企画中である。中小企業の魅力や職場の雰囲気を知ってもらいたい、県内就職に繋げたいと考えている。

（事務局 児玉）

1. 令和6年度大学・地域共創プラットフォーム香川産学官共創チャレンジ支援補助金について【資料5】

令和6年度大学・地域共創プラットフォーム香川産学官共創チャレンジ支援補助金について、事務局から説明を行った。

2. その他（若者の県内定着に関する意見交換）【資料6-1, 6-2】

以下のとおり意見交換が行われた。（●…意見等 ○…回答）

●今年3月の県内大学・短期大学・高等専門学校卒業生における県内就職率については、高専を除き過去10年間で最低の数値となった。うち県内出身者の県内就職率についても、高専を除き過去10年間で最低の数値となった。これまでは県内出身者が県内大学に進学すると、約8割が県内就職する流れがあったが、約7割に落ちた。

●香川県への移住者については、R5年度は前年度から266人増加している。移住前の住所は、中国・四国地方で約30%、近畿地方と関東地方でそれぞれ約20%となっている。年齢別に見ると20代が一番多く、次に30代と若い年齢層で全移住者の過半数を占めていることが分かる。

●県外大学に進学した学生の就職状況について、県内高校生約8000人のうち、半分の約4000人が大学に進学し、うち83%の約3300人が県外大学に進学している。県外大学に進学する学生約3300人のうち、約3割の1000人弱が県内就職するものの、2000人超が主には大都市圏に就職している状況である。そのため、香川県では、Uターンの就職を促進したいと考えており、今年から公式LINEを運用し、県外大学に進学した学生と繋がりを持ち、色々な情報発信をしている。また、東京と大阪にも就職コーディネータを配置し、きめ細かい相談対応ができるようにしている。また、若年層の女性の県外流出が課題なので、県外大学等に進学した女子学生が参加しやすいイベントを、岡山県や近畿地方で実施したいと考えている。大山委員からは県外にも手を広げていきたいという話があったが、有効な連携ができればと考えている。

（香川県 臼山委員）

○県内大学の県内就職率が過去最低になっているという現状が再確認できたし、Uターンに向けた対応をしっかりとやっていきたいという話だったと思う。県内企業の魅力だけではなく、香川県の住みやすさなども要因の一つになっているのではないかと考えているが、Uターンをした理由についてもしっかり調べていただきたいと思う。（山神部会長）

●企業の魅力を発信するとともに、地元の魅力を発信することが大事なのではないかと考える。（香川県銀行協会 松田委員）

●4月から政策課内に地域活力推進室を設け、大学連携と移住・定住・関係人口の創出・拡大に取り組むこととなった。大手人材サービス業の担当者と話をする機会があったのだが、内定の時期が早期化しており4・5月の早い時期に7割が内定を受けており、企業が就職フェアをしても学生集めに苦労しているような状況である。インターンシップに力を入れるべきではないかという話があった。令和6年度事業では、就職活動が始まる前に学生に対して県内企業情報を届けることが重要と考える。（高松市 齋藤課長補佐）

●業種別オンライン県内企業見学ツアーの参加学生数が減少した理由や今後の学生の確保についての対応策があれば教えていただきたい。

（小豆島町 河野主任主事）

○令和5年度からコロナへの対応も変わり、学生の意識の変化（対面で動く、学生自身が調べて先に動く）もあり、参加者の減少につながったのではないかと考えている。今年度、県外大学の学生への情報発信を行うとともに、県内大学の学生にも引き続き情報発信を行い、参加学生の確保に繋がりたいと考えている。（キャリア支援センター 尾崎特命教授）

- 毎日のように県外企業が大学を訪問する。地元に残したいという気持ちはあるのだが、大企業の子会社が来訪するようになり、県内企業も活発に動いていかないと、県外企業に人材を取られるのではないかと思う。人材不足は、県内企業の動きが遅いことにも原因があるのだと思う。学生は、早く連絡をくれるところに必要とされていると感じるのだから、県内企業には早く動いてもらいたいと思っているところである。(徳島文理大学 横山委員)

- 大手の企業に雇われているが、ミスマッチがあったという話も聞いているので、早く決めることがいいことなのかと思う。

(香川県商工会議所連合会 大山委員)

- 香川県産業政策課では、若者に魅力がある産業を創出していこうということで、創業やスタートアップに係る支援を行っているところである。創造やスタートアップの機運を醸成しようということで、8/25に「かがわスタートアップフェスタ」を開催することとなった。県内のスタートアップ企業やその他魅力的な製品を製造する企業用のPRブースを設置できるようにしている。企業や来場者の交流の場となるようなイベントにしたいと考えている。現在、PRブースの募集を行っており、来週には参加者の募集を行うこととしている。ぜひ企業や学生に参加していただきたいと思っている。大学・地域共創プラットフォーム香川産学官共創チャレンジ支援補助金を活用した「リケラボかがわ」のイベントも同日開催するので、相乗効果を図ってまいりたい。

(香川県 佐々木委員)